

特別会計のあらまし



財産、地方債及び一時借入金の現在高

財産

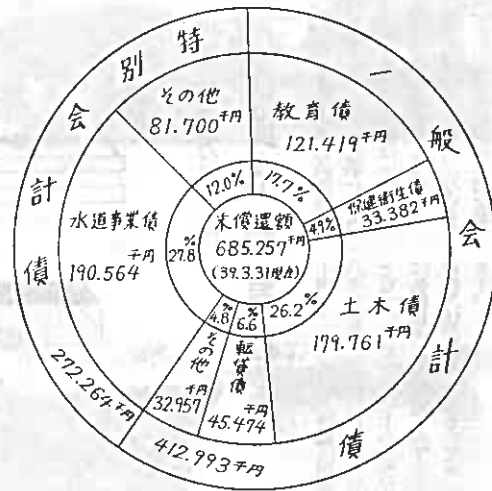
下の図表は昭和三十九年三月末現在の市有財産の現在高を示すものであります。

市債

市では、興へ納める港の負担金や、道路の整備拡張、学校建設、住宅建設等、主要な事業を推進するために、一度に多額な財源を必要とします。もちろん市の自己財源、つまり税金をはじめとする市だけで捻出できる財源のみでは、到底まかないきれません。そこで政府の資金や市中の金融機関等から長期の借



入れをするわけです。これが市債であります。しかしこの借金はみだりにできるものではなく健全財政堅持の建前から国や県の承認が必要であります。3月末目現在における市債の未償還元金は、六億八千五百二十五万七千四百で、これを借入目的別に示しますと、右のグラフのようになります。



一時借入金  
現在においては借入金はありません。

企業会計

投薬の待時間を短縮

好評の自動薬剤分包機

市立富士中央病院事業

事業の概要

①入院、外来診療人員  
……昭和38年度下半期における診療人員は入院が四万五千五百十五人、外来が九万四千六百四十九人を数え年間実績では8%増加しています。  
②建設改良事業  
……これについては、すべて市の一般会計からの繰入れに依存せざるを得ないので十分の整備はできなかったが外来者の自転車置場の新設を始め小児科の暖房工事や特に薬局に待望の薬剤分包機を購入し

収入支出の状況

……この年度下半期の収益的収入は一億八千七百四十四円に対し、支出は一億二千四百八十八千四百でありました。また資本的収入は百九十一万六千円、支出は百九十九万八千円となりました。いづれにしても一般会計からの繰入れにより公共の福祉を増進できるよかに運営してまいりたい。

あとがき

……昭和38年度下半期の収益的収入は、千四百五十八万一千円で、支出は、千四百七十七万四千円となり、差引一千二百三十二円であり、また資本的収入は市の一般会計からの繰入金七百九十七万四千円及び県その他の工事負担金百三十七万四千円を財源とし、前記事業や企業債元金償還等の支出にあつきました。

水道事業の業務状況

事業の概要

給水状況

……昭和39年3月31日現在の給水戸数は、九千二百一十六戸で普及率は、八一・六%であります。また給水量も年々増加し、年間一日平均の給水量は一万六千九百立方メートルを記録しました。この分では、いままさしく、給水量の増加に伴い近い将来現有給水能力の限界に達

建設改良事業

……昭和38年10月1日から昭和39年3月31日(昭和38年度下半期)までに施行した主な工事は、県道相木、鷹岡線配水管布設工事を始め岩本上町地先および下中、上中、瀬戸河原地内の配水管布設工事などでありました。

……昭和38年10月1日から昭和39年3月31日までの下半期における財政の概況であります。今後の市政の運営にあつては、数多くの困難が予想されますが、財政健全化のため、極力消費的経費の節減を図りつつ、重要事業の推進に当つては、慎重に迅速やかな決断をもち、懸案の諸施策の早期実現を図るべく最善の努力を傾注し、より効率的な予算の執行に万全を期する所存であります。この間にあつて事業の執行の原動力となるのは、やはり皆様に取り決めていただく市税であります。この財政事情の公表が、市民の皆様への市政への関心を高め、納得のゆく納税ができて、明るい政治が展開しますよとの今後の市政進展に一層の協力、ご支援を重んじます。お願いいたします。